

日時：令和6年7月4日（木）13時30分から15時15分

場所：四街道市企業庁舎 2階会議室

出席者：

【委員】江崎俊夫（会長）、海保智行（副会長）、北林栄峰、中村嘉孝、長谷川睦美、渡部洋、
富樫直子、福田三千男、稲坂敏幸

【職員】鈴木陽介市長、田島衣織社会教育課長、松尾亮課長補佐、柳田一成主事、菅井里桂主事
欠席者：1人（川口一美）

傍聴人：0人

1 開会（開会の言葉：田島社会教育課長）

2 委嘱状交付（鈴木市長より各委員へ委嘱状を交付）

3 市長挨拶（鈴木市長より挨拶）

（市長は所用のため退室）

4 委員紹介・役員選考（会長：江崎俊夫、副会長：海保智行）

5 報告 事務局から2点の内容について報告

- （1）第3次四街道市生涯学習推進計画の令和5年度進捗状況調査結果について
- （2）第4次四街道市生涯学習推進計画について

（議題に入る前の確認事項）

- ・会長が議長（四街道市生涯学習審議会条例第5条第1項のとおり）
- ・会議の成立（四街道市生涯学習審議会条例第5条第2項のとおり 9名の委員出席）

6 会議の公開等

江崎会長の議事進行により、下記についての了承を得る。

- ①会議は公開とする。
- ②会議録の作成については、発言者を明記し、要点筆記とする。
- ③議事録署名人については、押印廃止に伴い、特に署名を求めない。
- ④傍聴者を確認し、傍聴人はなし。

7 議題

江崎会長 : それでは、議事に入ります。

議題（1）「第4次四街道市生涯学習推進計画の進捗管理」について事務局より説明をお願いします。

- 事務局 : (資料5-1、資料5-2、資料5-3に沿って説明)
- 江崎会長 : ここまで事務局から説明のあった件について、ご意見・ご質問はございますか。
- 海保副会長 : 資料5-2の達成度については、例えば①のものについて達成することができたら○がつくということか。
- 事務局 : 今回、提示している満足度①・②・③については事務局の案です。これを見て一見わかりにくい等がございましたら特にご意見を伺いたいと思っています。
1点資料の訂正を行います。資料5-1④達成度 について「学習した成果を社会や他者のために生かす充実感を得る」とありますが、「学習した成果を社会や地域のために活かす充実感を得る」の誤りです。
- 江崎会長 : この評価については難しいです。
- 北林委員 : 5ヵ年計画なので、初年度○%、次年度○%ってことになりますかね。それだとどのような評価になりますか。
- 事務局 : 生涯学習は、数値でお示しをすることが難しいかと思しますので、委員の皆様にご意見を頂きたいと思います。
どのようなイメージで項目を設定したかをご説明いたします。「①学習した成果を活かした課題解決を行う」ということは、元教員等が草刈りを実施したなど、以前何かをやっていたものを活かしている事業だったら○・×で評価をしてもらいます。「②学習した成果を社会や地域のために活かす充実感を得る」ということは、地域の方からの手紙が活動の励みになっていることや、生涯学習を持続させるためにどんな良い結果があったかを○・×で評価をしてもらおう。「③社会への参加・貢献につながっている」ということは、高齢者の社会参加や、地域貢献につながっているものは○・×で評価をしてもらおうということです。
- 富樫委員 : 4段階評価を行うと年度毎の評価が変わるから、○・×の評価にするということは、意図はわかるのですが、数値化することができないものを単純に○・×で評価するのも難しいと考えています。事務局はどのように考えていますか。
- 事務局 : 第3次生涯学習推進計画では、9割以上達成することができたら◎、6割から8割程度達成することができたら○のようにしていました。基本的に事業を実施していたら評価としては○、事業を中止や廃止を行っていたら×のように4段階評価をしていますが、○と×となっていたのが現状としてあります。以上のことから、4段階評価をするのではなく、評価をする担当者にとっても、評価をみる市民にとっても、わかりやすい○・×評価で出来るものが良いと事務局としては考えています。

- 福田委員 : 達成度という文言だと、①→②→③と段階的に達成していくイメージとしてとらえていたのですが、関連性はなく独立した項目の評価なので達成度というのは違う気がします。
- 事務局 : 再考します。
- 長谷川委員 : 生涯学習の評価なのに、○・×で評価をするというのは何を意味するのか。
- 事務局 : 事業の評価は、各事業で事務事業評価を実施しています。従前、生涯学習審議会からは事業を評価するものでは意味がないのではないかとご指摘を頂いています。第4次生涯学習推進計画では、事業の評価ではなく生涯学習としての推進状況を図るため、今回の案では事業の部分の評価は削らせていただきました。
- 江崎会長 : 大変難しくわかりにくいです。事業毎の評価ではなく、各事業が生涯学習としての役割をどの程度しているかを評価するということか。
- 長谷川委員 : この評価は、毎年実施するものなのか。
- 事務局 : 毎年、実施をする予定。
- 長谷川委員 : 毎年、これを実施することは難しい。各担当課が、○・×を実施するのは難しいのではないか。
- 北林委員 : 各事業の概要というのがあるので、それが達成できているかを5年後最後の到達点としていき、毎年○%到達したというので達成度とすればよいのではないか。
- 事務局 : 基本的に市が実施している事業は、実施要項等の目的に基づき実施をしており、それらが各事業の概要となっている。事務事業評価では、各事業の実施状況等について評価をしていることから概要からの評価は同じようなものになってしまうと考えます。
- 北林委員 : 例えば、現時点で50講座を60講座にしましたなど、進捗管理で30→40→50などが見えてくればわかりやすい。それが見えてこないと単に○・×となりわかりにくいものとなる。○%達成しました等があれば市民の方もわかりやすくなるのではないか。
- 長谷川委員 : この計画から新しい事業がはじまる訳ではなくて、毎年○%良かったと評価が上昇することなんてありえないです。継続している事業で、昨年度より○%上昇した等で評価をすることは新規事業でない限り難しい。例えば10講座だったものが20講座と増加した場合には評価できるけど、10講座で講座数は変わらず講座内容が変わったから評価としては○、講座数は減ったけど講座内容は充実したから○というのは達成度としてないのではないか。
- 中村委員 : 1年毎の評価と5年後の評価の内容が混在してしまっているのではないか。毎年評価を

するのであれば、1年目で〇%達成しました、2年目で〇%達成しました、のように経過評価になるとおもうが、内容を明確化していないためわかりにくいのではないか。

事務局 : 第4次生涯学習推進計画を策定する際に、数値を追う必要があるものについては計画の11頁に成果指標を設けています。5年後に生涯学習の推進に繋がっているかどうかをこの成果指標で確認をいたします。

江崎会長 : 最終的には、この成果指標を基に確認するということですね。毎年、この指標値を〇%達成したかを確認はしないのか。

事務局 : 審議会の中で、必要と判断されれば毎年数値を出していただくことは可能です。ただし、昨年度の生涯学習審議会でもお話があったとおり、数値の変動があまりなくても生涯学習の推進が出来ていなかったというわけではないとありました。その際、昨年度は詳細なお話はされていませんでしたが、実績値のみでないものを生涯学習の推進をするための指標として設定しました。

江崎会長 : 増加傾向だから良いというものではないというのはわかりますが、少しわかりにくいです。達成度の名称や内容も含めもう少し検討をして頂きたいです。

渡部委員 : 一度、実施をしてみて難しければ次年度以降変更をしても良いのではないか。

稲坂委員 : 計画の9頁に「目指す方向性」が設定をされているので、これを達成項目としてはいけないのか。

事務局 : 事業はすでに「目指す方向性」に沿って割り当てられているため、他の方向性で達成指標とすることは難しいです。計画の10頁に計画の体系図のとおり各方向性には、推進項目を設けているので、推進項目としてどの程度達成をしたかを図ることは可能です。ただし、事業毎に推進項目を変更することになってしまいます。

稲坂委員 : 今回ご提案いただいている内容は、ある程度それらを網羅されているということか。

事務局 : 出来る限り、まとめています。

渡部委員 : 責任放棄をするようで申し訳ないが、市側の担当課を集めてもう少し検討をすすめてはどうか。

稲坂委員 : 第3次生涯学習推進計画の視点の箇所は、各事業が異なるものがあって評価することができているので、事業毎に異なる指標でも問題ないのではないか。

事務局 : 庁内でも再度検討をさせていただきます。市民の方がみてもわかるようなものを評価項目として設定したいため、稲坂委員からお話があった「計画の目指す方向」などをうい

てできればと考えていきます。

江崎会長 : その他、ご意見がある方はいますか。特に無いようですので、以上で議題を終了いたします。それでは、議長としての任を解かせていただきます。

8 その他 特になし。

9 閉会（閉会の言葉：田島社会教育課長）